資料１

平成２１年１１月２４日
行政経営部行政改革課

前回の懇談会における主な委員意見について

１　懇談会における意見

No.	項目	意　見	回答，対応案
1	共生と協働	・「共生」と「協働」，いずれが適切か，議論すべき。 ・ただ，「共生」を掲げてしまうと，行政と市民は対立するものということも含めて一緒に生きていくことにもなり，違和感を覚える。 ・市民参加，行政参加はイメージできるが，「共生」というキーワードから宇都宮市として何をイメージするのか，重要なテーマだと思う。	・法律では，人と人だけではなく，人と自然，人と動物との関係など，「共生」は様々な形で用いられている。 ・内閣府の定義や国内文献などにおいても，多様な意味付けで用いられている。 ・これらを踏まえ，「共生」は，人と自然，人と環境などの関係性を含む広い意味合いで用いられる場合が多いことから，行政として克服すべき「本市の行政運営上の課題」において用いる表現としては，「協働」の方がふさわしいと考えられる。 ⇒　参考資料１
2	共生と協働	・「協働」より，「共生」の方が広い概念。「共生」の中に「協働」が包含されている。 ・いくつかの要素があり，その集合体が「共生」になると私は言葉としては認識する。	
3	共生と協働	・官民の対立について言えば，両者の折り合いが付かない事例が多い中で，価値観的なことも含めて，「共に生きていく」という姿勢がないと，これから先，通用しないはず。そこから実践的な「協働」が生まれてくる。	
4	共生と協働	・自分たちの団体は，性別や年齢に関係なく，それぞれのすべての人たちが「共に生きていける」男女共生の社会を築くという目的で取組を進めている。	
5	共生と協働	・「共生」という言葉が一つの上位概念にあって，その中の一つの方法論として「協働」という言葉があると思うので，ここは「共生」とする方が自然に感じる。	

No.	項目	意　見	回答，対応案
6	共生と協働	・「共生社会　宇都宮」のような表現で進めるのであれば，宇都宮市の構成員として，年齢とか国籍とか性別とかを問わず，共に生きていくことを目指すという意味で，「共生」でいいと思う。	（同上）
7	市民協働	・協働が進んだ場合，行政の果たすべき責任の領域が重要になる。一個人では解決できない課題に対する行政の責任については，明確にしておかなくてはならないと思う。市民協働が進んだら，市民や地域に任せきりということではないはず。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）
8	推進の柱	・「最少の経費で最大の効果」の「最少の経費」という表現が気になる。 ・とにかく効率，最少の経費で最大の効果を追求してきた結果，ひずみが生じてしまう部分もある。この表現は，もう３０年間ぐらいずっと言われているような言葉であるから，表現を再考してもいいと思う。	・「最少の経費で最大の効果」という表現は，地方自治法に使われているもの。 ・市民に公表する大綱でもあり，より理解しやすい表現に心掛けていきたい。
9	基本目標	・基本目標には，絶対揺るがない部分，例えば「市民一人ひとりを絶対に守る」など，今回の行政改革が目指す意気込みを盛り込んではどうか。 ・宇都宮市のこれまでの行政改革は，経費節減の部分は総体的にもかなり進んでいる印象を受ける。しかし，このまま推し進めると，行政の果たすべき役割，すなわち，この社会経済状況の中で真っ先に対応していかなければいけない根源の部分まで切り詰めてしまうのではないかという感がある。 ・本筋の，今回の行革で宇都宮市は市民のために何ができるのか，これを基本目標で触れてはどうだろうか。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）
10	推進手法	・民間企業も行政も私は変わりがないと思う。民間企業の目的は利潤の追求，行政は市民なり，国民の福祉の最大化という点が異なるだけであり，基本的に物事を進める手法に違いはないはず。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）

No.	項目	意　見	回答，対応案
11	基本目標	・具体的な取組について，可能な限り，目標値を持つべきだと思う。 ・基本目標について，行政改革の目標が市民の福祉の最大化だとされても，一市民からはそうは感じられず，逆に，行政改革が進むと，市民の負担が強くなるという印象が強く，結果，改革を進めたことで，宇都宮市と一緒に頑張ろうという状態につながらないと思う。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）
12	基本目標	・行政がまず考えなければいけないのは，本当に困っている人たちに対して，これからの行政改革によってどう対応できるか，きちんと対応していけるか，ということ。場合によっては，そのための経費や効率は無視しなければいけないこともあるかもしれない。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）
13	基本目標	・基本目標には，基本の考え方，つまり，何のために行政改革をやるのか，つまり，出口のところを盛り込むべきだと思う。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）
14	推進の柱	・「最少の経費で最大の効果」という表現で，私は問題ないと思う。最大，最少という比較の言葉であり，同じ効果をあげるためには，経費は少ないに越したことはない。同じ効果で経費をさらに少なく，要するに無駄を少なくするという表現だと思う。	・市民に公表する大綱でもあり，より理解しやすい表現に心掛けていきたい。
15	推進体制	・構成は非常によくできていると思う。概念図として，これ以上のものはできないと思う。 ・あとは，この中で挙げている項目について，どういうチェック機能を果たして着実に実行できるかという点。 ・我々懇談会のメンバーとしてはどうチェックするのだというところを議論すべき。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）

No.	項目	意　見	回答，対応案
16	取組項目	・資料中の「地域まちづくり活動への支援の充実」や「地域行政機関におけるコーディネート機能の強化」については，具体的な姿がイメージしにくい。 ・今後，取組を実際に推進する際には，対象となる組織の位置付けや責任の所在等を明確にする必要があろうと思う。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）
17	推進の柱	・市民と行政という冠がついた行政改革には違和感があり，改革推進の１番目の柱として「市民との協働の推進」はなじまないと思う。 ・行政改革を進めて，そこで得られる資源をどこに配分するのだということを基本目標でうたうべきで，市民との協働というのは，得られた資源を投入していくアウトプットの話であり，行政改革の推進の柱ではないだろうと思う。 ・だとすれば，Ｂの「仕組みの構築」と，Ｃの「持続的発展を可能とする財政構造の確立」，この２つが柱で，その結果として得られたものをどうやって使っていくかということがＡの「市民との協働の推進」に対する予算の重点配分ということだろうと思う。 ・その意味では，改革推進の柱に「市民との協働の推進」を，しかも筆頭で入れることは理解しにくい。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）

No.	項目	意　見	回答，対応案
18	推進の柱	・最初の柱を「市民との協働の推進」という形にすると，また宇都宮市は市の仕事を市民におろす気か，という印象を持たれる。 ・現状として，市民の熱意が高まり，自らの取組の推進を市に手伝ってもらおうというスタンスならいいのだが，実は残念ながらそういう状況は少ない。 ・市民との協働でまちづくりを推進する，これは今の時期のテーマであるが，これを前面に押し出せば，行政としては仕事のスリム化につながり，経費節減という点で目的を達成できるのかもしれないが，市民の立場からすると，そんな行政改革は進めてほしくないという話になる。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）
19	推進の柱	・「市民との対話を通じて官民の役割分担などを明確にした上で」という部分。これが重要となる。私は，この試みが協働の大前提として必要だと思う。 ・一方的に行政が決めて，「では，協働しましょう」というのではなく，対話を通じて官民の役割分担を明確にした上で実際の協働の取組を進めていきましょうという「市民との協働の推進」が第一の柱としてあり，その後で，行政内部の改革につながるという大綱案の構成は，私はベストだと思う。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）

No.	項目	意　見	回答，対応案
20	市民協働	・協働する範囲，「公共の領域」が過去の概念と変わっているということを頭の中に描いておくべきであり，超高齢社会に入る中で，地域のあり方がどう変わるのかという点が非常に重要になる。 ・公助だけでは立ち行かない，お互いの支え合い，公助，自助，互助という領域が大きくなり，それが公の中にどのように入ってくるか，私はこの点が大きなポイントになると思う。 ・より一層，少子高齢社会が進展するという事実を，行革を検討する中で我々は持っていなければいけない。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）
21	推進の柱	・新たな行政改革大綱策定の必要性の中に，高齢社会の到来や合併による新市の誕生，人口減少社会の到来，世界同時不況など，要するに環境が変化しているという表現がある。 ・これら新たな動き，環境変化に対応できる安定した行政運営がまずあるべきであり，よって，これが柱の第１にあるべきと思う。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）
22	推進体制	・あとは実行あるのみだろうというのが正直な感想。大綱を作り，絵にかいた餅にならないよう，チェック機能をどのように働かせるかだろう。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）

No.	項目	意　見	回答，対応案
23	市民協働	・多様化する行政需要や現状の財政事情，また，これから迎えるであろう人口減少社会。このような背景の中では，市民の力を借り，一緒にまちづくりに取り組まなければ，市政は回らないという意識を市が持っているようにも資料からは読み取れる。 ・率直に市は何のために，どうして協働を進める必要があると考えているのか。	・市役所の仕事を市民の皆さんにお願いしないと，市政が回らないという受身の考えから協働を進めるのではなく，活躍の場を広げる市民や団体などが主体的に物事を考えて，判断して実行していくことで，自分たちの描くまちづくり像を効果的に実現できる。そこに行政が支援をしていくことで，その事業や活動がさらに活発化する。そういう部分をさらに助長していく必要があるだろうというのが協働を進める背景。
24	市民協働	・「行政改革大綱」という名称からは，改革の対象・主体は行政だけであろうと連想する人も多いだろうと思う。 ・例えば，宇都宮市の「地域経営大綱」のような名称であれば，違和感ないのかもしれない。 ・協働に満足をしているときは，その状態を当たり前に感じるので，評価としては表には現われない。しかし，不満のときには，評価として明確に現われるので，職員一人ひとりが市民とどう関わっていくのか，それを伝えるものとしての大綱であることも忘れてはならない。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）
25	市民協働	・私は，「市民協働の推進」の柱が一番上で問題ないと思う。 ・行政に向かって進んで発言のできる市民団体はなかなかないし，発言する団体ができたとしても，協働していきましょうとか，一緒に支え合おうという状態にまで進むには，多くの壁があるだろうと感じている。 ・そのような意味では，一方的な協働ではなく，「市民との対話を通じて」というこの一行は，一般市民にとってありがたいというか，安心感というか，親しみ，そのような感情を役所に抱く。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）

No.	項目	意　見	回答，対応案
26	推進の柱	・５年間を見据えた大綱であり，この期間で特に力を掛けるべきものとして，私はＡの柱「市民協働」が最初にあるべきだと思う。協働なくして世の中が変わりますか。変わらないではず。 ・新たな行政改革大綱の目玉として，このＡの項目を宇都宮市としてはやるのだということを発信すべきだと私は思う。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）

２　懇談会以降，ＦＡＸ等で寄せられた意見

No.	項目	意　見	回答，対応案
1	取組項目	・今回の資料から，宇都宮市では，経費削減・収入増加について，積極的に取り組んでいると理解できた。 ・行政改革において，経費削減等の「数字」は重要な要素であるが，経費削減につながらないとしても（場合によっては，経費増になる場合もありうる），「市民サービスの向上」の観点で積極的に取り組むべき項目も検討することも必要だと思う。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）
2	取組項目	・行政改革の具体的な取組を検討する際には，広く市民に提案を求めるなど，市民の視点からの検討の場面があってもいいと思う。	（・御意見を踏まえながら，今後の策定に取り組む。）